

No. 29	昭和45年7月20日 発行 編集者：後藤光男 〒592 大阪府高石市高師浜2丁目4-4 電話 堺61局5374番
ねじればね	日本甲虫学会 〒658 神戸市東灘区御影町天神山46
July, 1970	

ラベル印刷のあれこれ(3)

後藤光男

Q

本編のA項で卓上用の小形印刷器に触れたが、最近田村保氏のご好意でADANA印刷器を見せてもらった。この印刷は志賀昆虫普及社でも取扱われていたが、67・68年のカタログに載っただけで現在は取扱いが中止されているようである。一見して取扱も簡単で仕組もうまい具合にできているのに感心した。構造は一番前に押し下げする把手、その向うに固定された紙ハサミ台、さらにその後に弧状に上下するゴムローラー、一番後には前にせり出してくる組版の取付金具があり、この取付金具の上部に磨金属製で丸形のインク台がついている。

この印刷器は用紙を1枚ずつ抜き差しする手間はあるが、手前の把手を押し下げ元に戻すだけで印刷が1回できる簡単なものである。仕組は把手を少しく押し下げるとゴムローラーが上ってきて、組版もせり出してくる。さらに把手を押し下げると、下から上ってきたゴムローラーは組版の活字面に接し、活字面を転ってインクを付け、終ると弧状にインク台の方へ上ってゆく。インクの付けられた組版はゴムローラーがインク台の方に上るにつれ、なお前にせり出してくる。ゴムローラーがインク台に達して次のインクを付ける位置になった時に、組版の活字面が印刷紙に接して印刷される。把手を上げると組版は後退し、ゴムローラーは弧状に下って印刷前の位置に戻る。この反復によって必要枚数が印刷できるのである。

この印刷器はハガキ大の用紙まで印刷でき、本業の名刺屋では沢山使われている。印刷の仕方が簡単であるが、版組にかなりの経験と技術を要し、また多数の活字を準備しなければ完全に使いこなすことができないのではないかと感じた。活字を組む版組箱の四方にビス穴があって、コミ(スペース)はビスで固定する。版組箱にぎっしりデータラベルを組むと、90地名(1列18地名

×5列)組むことができる。活字バサミに1地名分の活字を組み完全に固定するのに馴れていても相当苦勞するが、この90倍と聞くだけで気が遠くなる。仮に1列18地名だけにしておいても、各ポイント大小のコミ(スペース)が必要である。版組箱に組版の位置を考えておかないと、用紙の抜差にも余分の手間がかかり、用紙のロスも多く、印刷後解版の活字を活字ケースの各コーナに戻すのにも、忍耐のいることだろう。

R

ラベル印刷のことを書き出してから、数人の方々より組版の四隅の活字がひどく磨耗するが、どうすれば防げるかという問合せがあった。町の印刷屋では用紙の裏をゴムローラーが転って印刷するから、活字の磨耗はどこも均等である。しかし活字バサミの場合、その人のクセによって右か左に力が入るから、組版の中央部より隅の方が早く磨耗するのは当然である。私は磨耗を防ぐのに罫物を使っている。罫物は10種類あるが表罫(単柱罫)か裏罫が適している。活字バサミの巾一杯に表又は裏罫を2枚用意するだけで事足りる。組版の両端に罫物を組み込んで印刷すると、力は2枚の罫物にかかり磨耗はかなり防げる。刷上りは組版の両端に表罫ならば細線(裏罫では太線)が入るので、線に沿って切断すると左右の揃ったデータラベルができる。組版の四方を罫物で囲えば枠入りのデータラベルが刷れるが、罫組は少しく技術を要する。

S

印刷のとき右か左に力が入るクセを弱めるのに、和文タイプライターの古活字でも利用すると、かなり効果がある。それは活字バサミのネジにもっとも近いコミ(スペース)に、この古活字を代用する。活字バサミの巾一杯の古活字では効果半減で、1ヶだけがもっともよい。活字バサミはコミ(スペース)・罫物・組版・罫物・コミ(スペース)・古活字の順で埋められていて、横から見るとコミ(スペース)は1段低くて、他が突出している。印刷のとき古活字に支柱の役目をさせられるので、頭も揃えやすく下段とも平行させやすい。

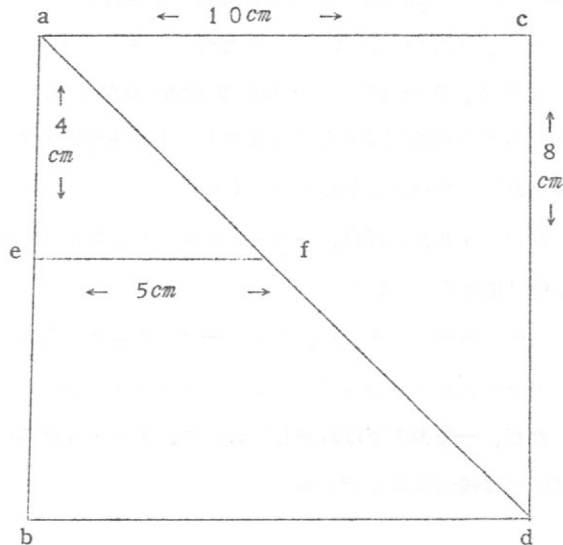
T

私は以前縮版ラベルでよく失敗した。縮少率は何分の何と原図にも書き、口頭で念をおすのだが、でき上がった縮版は思っていたより小さいことが多かった。これは原図に原因があって、用紙一杯に貼りこんだデータラベルの原図では我が意を得たが、用紙に余白をもたせていた場合に限って縮

版が小さかった。凸版屋は用紙の何分の何として縮少していたのである。私はそれ以後必ず原図の四方を枠で囲んで、枠内何分の何に縮少と指定している。知合の印刷屋が呉れた手帳の付録に縮少について参考になる記事があったので再録してみる。データラベルだけでなく、むしろ図版縮少に利用が大である。

「図版の拡大縮少」

原稿にトレーシングペーパー（またはパラフィン紙）をかけ、必要な部分を線で囲み、端と端を結ぶ対角線を引く。
 a b c d を原稿の寸法とし、その天地を a e に縮めたい場合は、e から a d へ平行線を引き、その線が対角線に交わる f までの寸法（e f）が左右の寸となる。
 （右図参照）



— 文 献 紹 介 —

Fauna Japonica, Lycidae

中根猛彦 著

224 Pp., 83 Text fig., 8 pls.

本会の創立同人の1人である中根猛彦理学博士による邦産ベニボタル科の総説である。本書によると邦産類は6族88種に分けられ（内新種15種、新亜種7種を含む）、属や種の検索表とともに各種について部分図をそえた詳細な記載がなされている。また、くわしい巻末の参考文献は本科の研究者には便利である。やや高価であるが、是非とも甲虫愛好者は座右に具えられることをおすすめしたい。（後藤）

発行所 財団法人 学術書出版会 101 東京都千代田区神田神保町1-60
 （赤石第1ビル内）

定 価 4900円

カメラでみるしぜん

阪口 浩平 著

当会の創立同人の一人である阪口浩平理学博士が、永年にわたるカラー生態写真の集大成として、このたび標記題名のもとに6分冊として発行された。

即ち、1.なつのはじめ 2.なつ 3.あき 4.ふゆ 5.はるのはじめ 6.はるの6冊で、各冊とも昆虫・鳥類の生態写真が主で、それに若干の小動物と植物が収容されている。低学年の子供を対象として編集されたものと思われるが、どの頁を開いても見事な美しい写真は、我々の目をも充分に楽しませてくれる。

各冊 48P.(写真、一部モノクロームを含む)+4P.(解説)。但し第6号には総索引(4頁)が付け加えられている。

定価 各冊 380円、6冊が一つのケースに入り 2280円。

大阪市天王寺区上本町3-2(〒543)ひかりのくに昭和出版株式会社 発行。

ただ、一般書店では販売しておらず、東京・大阪等の大都市の百貨店の書籍部にしか置かれていないのは残念なことである。

(大倉)

新 入 会 員

復 活

申 告 退 会

認 定 退 会

生態・分布などの新知見を

ベースアップによる印刷費の高騰に加え印刷業界の再編成が云々されている今日、この種学術雑誌の発行は前途多難と思われませんが、本会では昆虫学評論に適する原稿であれば、最新号でどんどん消化する考えでおります。昆虫学評論第23巻第1号は年内に発行する予定ですので、研究論文はもとより埋草用の短報をお待ちしています。

短報としてどしどしお寄せ下さい

昆虫学評論第23巻の会費を納入ねがいます

本号(第22巻第2号)で、ほとんどの会員は会費切れになります。同封の振替用紙により8月末日までにご納入下さるようお願いします。

振替口座番号 大阪39672

加入者名 日本甲虫学会

第23巻の会費は1,000円です

住 所 変 更 (表示変更を含む)

〒100-0001, 1 お貸金の0巻02第